

第14回
室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会
会議録

開催日時 令和5年8月28日(月) 10:00～

開催場所 室蘭市役所本庁舎3階 議会第一会議室

出席者 委員：吉田委員長、木元副委員長、菊地委員、森川委員、須田委員、菊池委員、
三浦委員、西畑委員、波多野委員、山内委員、石田委員
事務局：関川部長、田所主幹、佐藤主査、大友主査、
古道主任、内田主事、前川主事補

次 第 1. 令和4年度収集地区再編、手数料改定に伴うごみ量等の変化について
2. 食品ロス削減の取り組みについて
3. ごみステーション集約の検討について

傍聴者 0名

1. 報告事項

次回開催予定日について

次回の室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会は令和5年11月に開催予定。

2. 資料、参考資料の概要

資料1「令和4年度収集地区再編、手数料改定に伴うごみ量等の変化について」

令和4年度収集地区再編、手数料改定に伴うごみ量等の変化について説明した。

①収集地区再編の効果

- ・ごみ収集の移動距離・移動距離ともに効率化に繋がった。
- ・ごみ収集の移動距離・移動時間・ごみ量すべてで曜日による業務の偏りが解消され、平準化できた。

②ごみ処理手数料改定の効果

- ・ごみの排出量が2%ほど減少した。
- ・手数料収入が1.3倍となった。

資料2「食品ロス削減に向けた取組について」

昨年度の食ロス削減の取組と今後の予定、食品ロスに関するアンケートの結果について説明した。

①食品ロス削減の取組

- ・令和4年度はフードドライブや防災訓練での備蓄食品の配付、食育フェスを開催した。
- ・令和5年度は前年度の取組に加え、普及啓発活動も行っていく予定。

②生ごみ処理機等購入助成状況とアンケート結果

- ・令和4年度は146件に対し、871,400円の助成。

③お供え物の処分方法に関するアンケート結果

- ・28（回答率71.8%）の寺院がアンケートに協力していただいた。

参考資料①「令和4年度生ごみ処理機等購入助成金アンケート結果」

生ごみ処理機等購入助成金制度を利用した方にアンケートを実施。助成制度に対する意見や生ごみ処理機等を利用しての感想をまとめた。

参考資料②「お供え物の処分方法などに関するアンケート結果」

室蘭市の寺院を対象にお供え物の取扱や可燃ごみとして廃棄する量、お供え物の食品ロス削減に関する意見をまとめた。

資料3「ごみステーションマップ（ごみ袋数別）」

ごみ収集事業者にごみステーションごとの普段排出されている燃やせるごみ袋の平均的な数を調査し、地図で示した。

参考資料③「町別ごみステーション数」

町別のごみステーション数を表にまとめた。

3. 提案された意見・方向性

1. 令和4年度収集地区再編、手数料改定に伴うごみ量等の変化について

- ・収集地区の変更により事業者間の平準化はできたことは喜ばしいことが、収集事業者さんの人員不足などに対応していくには、根本的な問題であるステーションの数を減らしていないと難しいと感じた。(吉田委員長)

2. 食品ロス削減の取り組みについて

- ・お供え物は先祖に対するものなのでそれを再利用することに抵抗があるという考えもわかる。(吉田委員長)
- ・お寺でお供え物持ち帰りのPRをもっとしていただいて持ち帰りが普通になればいいなと思った。(菊池委員)
- ・お供え物は寺院の問題であり、各寺院にまかせてやってもらうしかない。(須田委員)
- ・事業系の食品ロスに関しても目を向けなければいけない。(安部委員)
- ・フードドライブなど食品ロス削減の取組をわかりやすく広報やホームページでPRしてほしい。(吉田委員長)

3. ごみステーション集約の検討について

- ・集約するにあたってごみをごみステーションまで持って行けないような弱者の対策を同時考える必要がある。(森川委員)
- ・蘭東と蘭西を比較してみると、税金の使い方の不公平性の問題もある。(森川委員)
- ・町会に入らず個人ではごみステーションを設置している人もいるので町会に入ってもらっても市のほうで進めていただきたい。(須田委員)
- ・戸別収集の多い地域ではそれが当たり前だと思っている。当たり前のことを直すというのは難しいが、まずはこの問題を理解してもらうことが大切。慎重かつ速やかに進めていただきたい。(森川委員)
- ・ごみ袋が1～2個しか出ていないごみステーションが4割近く占めるので、そこから集約にご協力を求めていくのがいいと思う。(吉田委員長)
- ・集約と同時にすでに長い距離を歩いてごみを出している弱者の救済も考えていただきたい。(石田委員)
- ・ごみ袋料金の見直しや廃棄物収集効率化システムの実行を行っているこのタイミングで集約を行っていかないといけない。(吉田委員長)
- ・奈良県生駒市の「こみすて」という取組のように、ごみステーションで交流もできるような仕掛けをするとごみ問題の解決と地域コミュニティの持続を同時に行える。
(木元副委員長)
- ・一件でもぽつんと軒先のところが残ってしまうとほかの軒先を減らしたとしても、移動距離、移動時間はそんなに変わらないので、単純なステーションの数の指標だけではなく収集にかかる移動距離、移動時間なども考えて集約をしていただかないと効果が少ないと感じる。(三浦委員)

4. 議事録

議題

(1) 「令和4年度収集地区再編、手数料改定に伴うごみ量等の変化について」

事務局より説明

資料1 「令和4年度収集地区再編、手数料改定に伴うごみ量等の変化について」

<吉田委員長>

はい、ありがとうございます。収集地区の再編に関わる収集時間・収集距離の減少の効果、手数料改定による影響についてご説明いただきました。

収集の効率化ということで、収集距離は3%ほど距離が短くなっていて全体の距離が非常に長いので少なくはない量です。収集車の距離が非常に短くなったということなんですけども、稼働時間は思ったほど少なくなりませんでした。これは私が考えるにステーションの数が減っているわけではないので、移動の効率化をしたとしても、結局ステーションを回る数は同じなので、なかなか回る時間は下がらないということですね。

今回の結果を見ると、やはり収集地区の変更により事業者間の平準化はできたということでこれ非常に喜ばしいことなんですけども、全体の移動時間・稼働時間を短くして収集事業者さんの人員不足などに対応していくには、やはり根本的にステーションの数を減らしていないと、これ以上の効果は少し難しいように感じました。

またごみ処理手数料は5割値上げということで、平成10年の0円から80円に値上げをした際はごみ量が20%近く減ったんですけど、今回はかなり減る量は少なかった。皆さんの手数料値上げに対する受入れはそれほど大きなインパクトではなく、若干の減量効果となったのかなど。1人1日のごみ量についてはコロナの関係で家庭で過ごされる時間が増えたので一時増えたかと思いますが、そのあとは普通どおり戻ってということで、値上げの影響もちょっとあるようですが、それほど大きな影響ではないのかと。

ごみ処理手数料は収入が1.3倍ですけども、かなり増えたので財政的にも良かったという結論ですね。

何かご質問ご意見ありますか。

<須田委員>

議題と直接関係ないかもしれませんが、ごみ袋について新聞などで改善を求めるいろいろなご意見が出てまして、市としても「しかるべきところは改善します」というような回答があったような気もしたんですけども、何か改善されたとか、これからするとかがありましたら教えてほしいなど。

<事務局>

ごみ袋についてですけども、強度については以前のごみ袋とさほど変わらない。若干厚くしているため強度的には改善されていますが、市民の皆様から今ご指摘にあったような「破れやすくなった」などのご意見をいただきましたので、ごみ袋のメーカーにごみ袋の破れやすい要因の分析をしていただきました。結論、はっきりとした原因はわからないんですが、ごみ袋の裁断断面がギザギザになっている部分がありまして、裁断の時の状態によってギザギザが強くてあることがあり、そこから破れやすくなっているのではないかというご見解でした。もう一点が持ち手のところ。圧着部分がとれやすい等ご指摘もありました。今回令和5年度の袋の発注から裁断面についてはできるだけなめらかにする。圧着部分についてはJIS規格を遵守してしっかり圧着するというをごみ袋の発注の仕様に入れまして、今後作製するごみ袋に関してはある程度改善されるのではと期待しているところです。

<須田委員>

ごみ袋の件で、袋を十文字に縛ってくださいというのがありますね。内側のところを縛るのは比較的楽に縛れるんですが、持ち手の部分を縛るとというのが、非常に縛りづらいという声が町会などからも出てまして。持ち手は二重になっていてそれを縛るのが特に面倒になってくるんです。冬場などは手袋を外すと手がかじかみ、縛ろうと思っても縛りづらい。なおかつ持ち手にするにはちょうどいいかもしれないが、縛るためには少し短い感じがして玉結びするには難しいということがお年寄りの声なんですよ。

そこでごみ袋を十文字に縛らなきゃならないものなのか。そういう市民や年寄りが大変だということに、本当に十文字にしなければならないものなのか。また、十文字にすることによって、業者さんがごみ袋をごみステーションから車に乗せるときに持ちづらいのでないかなと思ったりもするわけなんです。私の家ではごみステーションまで40mぐらいあるんですが、例えば30リットルのごみ袋に生ごみを多く入れますと、持ち手がうまくいかないと持って行くのが大変なんです。やっぱり持ち手は持ち手として使わせてもらったほうがいいのかなと思ったりもしてるんですが、そういう声はあまりないですか。

<事務局>

持ち手の部分については、持ち手の部分ともう一方の部分を縛って30リットルであれば30リットルということになっておりますので、手数料の観点からもきちんと縛って適正に出していただきたい。またきちんと縛ることによって中身がばらけないということもありまして、特にコロナ禍では中身が出てくると収集作業員さんの危険もありましたので、特に厳しく周知させていただいたところでもありました。感染症対策という観点も踏まえてごみが飛散しないように縛っていただければと考えております。たしかに持ち手の部分なので縛っているより持ち手としてそのままあるほうが持ちやすいというのがありますが、ひとつはぎゅうぎゅうにごみを詰め込まない、もうひとつはごみステーションに持って行くときには持ち手として使って頂いて捨てる際に持ち手部分を縛るなど、そういったことを工夫していただければ少しは解決されるのかなと思いますので、ご協力頂ければと思います。

<森川委員>

確かに分かるんですが、行政で考えてつくった袋というものと、我々使うほうの市民側の立場で考えると、若干考え方に違いが出てくると思うんです。

今言われましたように、20リットルなら20リットル、30リットルなら30リットルと袋に合うような入れ方をすれば縛れるというんですが、いろいろな人の話を聞いていると、かなり容量の余裕を持って出せる日もあれば、場合によっては次の収集日まで3日あったりと、ぎりぎりにごみ袋にごみを詰めなきゃいけないときもあるということなんです。そのときに持ち手が非常に縛りづらいと。

もし役所の方で持ち手に関係なく十文字に縛ってくださいと言うのであれば、持ち手を二重ではなくストレートにして持ち手にしなくてもいいと思うんです。縛るんだったらストレートにしたほうが縛りやすいし袋の経費も安くつくと思うんです。その辺を行政のほうで改善ということで若い職員も含めて改善提案をなされるというのが大事だと思うんです。我々市民のこういう改善の意識というやつを若い職員含め十分考えてもらって、市民にとっては1週間のうち1、2回ぐらい使うものなので、出しやすい袋をつくってもらおうということがやっぱり大事かなと思います。私は十文字にする必要はないと思いますが、してくださいということであれば、縛りやすいひもにしてほしいと思います。

<吉田委員長>

私も自分自身で出すときに、森川委員がおっしゃったように十文字で縛りにくいなと思うことはあるんですが、全国的に大体同じような袋の構造で、やっぱり十文字に縛るのがほとんどなんです。1番はやっぱり飛散ですね、袋を1回だけ縛っただけだとその隙間のところからやっぱりぽろぽろごみが出てしまう。特に昨今はマスクとか多いですね。作業員の方も多分持ち手がついてたほうが持ちやすいときもあると思いますが、やはり中身が出ないよ

う気を使ってごみ袋をステーションから出されるのも大変なので、今のところは市のほうのルールってのは全国的によく使われてるほうで。ただし、こういうふうに縛ったら持ちやすいですよなど縛り方もいろいろ工夫があると思いますが、そのへんはホームページのほうで、図示でこんな感じで縛ってくださいってことで載せていただけると。一応今も写真は載っていますけども、実際縛った後の持ち手の感じの写真や、ぎゅうぎゅうにごみ詰めすぎないこと、先ほどお話しにあったごみステーションに捨てる直前で縛るなどの工夫をホームページも含めて情報を出して広報していただくなど工夫をお願いいたします。

菊池委員はよろしいですか。

<菊池委員>

私もごみ袋の縛り方の件で質問したかったので、わかりました。

<吉田委員長>

はい、ありがとうございます。ごみ袋の話になりましたけど、ほかにどうでしょうか。ごみ袋料金改定に関しては、世帯あたりで年間だいたい5,900円ほど、月にすると130円ほどの値上げであまり実感しないぐらいの値上げだったので、実施前はかなりご意見をいただいたのですが今は皆さんの周りでは大丈夫そうですね。

<委員>

(特にない様子)

<吉田委員長>

ということで、1番目の議題のほうはこれでよろしいでしょうか。

1点、三浦委員どうぞ。

<三浦委員>

今のごみ袋の話で私ども収集を担っている組合のものなんですが、市民の皆さんに聞かせていただきたいんですけども、ごみの袋が変わったことによって今まで色別で可燃不燃が違ったものが今はチェックを入れるようになっていっていますが、現場ではチェックが入ってない袋が相当量なんです。これに関して、やはり面倒でやらないのか、あえて収集の曜日が分かっているんだからチェックしなくても分かるだろうということではないのか、そういったことを市民の方はどう思ってるのかなど。

それと役所の方とお話しをする機会があったなかで、今ごみ袋が白い色なわけなんですけども、特に冬場なんですけども、雪が降るとステーション中にごみ袋があるかどうか分からないようなこともあるんです。路肩にもよくごみステーションがあると思いますが、雪かきすると全部路肩に雪が寄っていくので、ごみ袋が1個とか少ない数だとあるのかないのかなみたいな部分も出てくるものですから、そういった部分で色もちょっと検討していただくことはできませんかという話はさせてはいただいているんですが。

市民の皆さんの立場として、今言ったようなそのチェックだとか色だとかについてどういうふうにとちょっと考えていらっしゃるのか聞きたかったです。

<吉田委員長>

それではチェックのことだけについてまず最初にご意見いただきたいと思います。

<須田議員>

チェックの関係はですね、それは難しいと思います。先ほど説明がありましたけども、市民からすると燃えるごみの日には燃えるごみを出している訳なんです。ですから、チェックする必要ないという考え方が結構強いんです。私も燃えるごみの日なんだから分かるだろうという考え方なんです。だからこの問題というのは最初からそういう疑問がありまして、や

はり色別にすべきではなかったかというような考え方は市民として持つての方が多いいと思います。

<吉田委員長>

ありがとうございます。ほかに今のチェックの話で。

<森川委員>

当初このチェックはどういう時につけるものなのかと疑問に思ったのは、町会、地区連関係でも多かったです。私の記憶が間違いなければ、家庭の中でお子さんだとか、おばあちゃんだとか、燃やせるごみと燃やせないごみの分別を間違っごみを入れたら困るから、家庭の中でチェックするものですよというような話を市のほうから聞きまして、それを地区連の理事会か何かで話しをしたような記憶があるんです。家庭内でチェックをつければ三浦委員が言われたようにチェックをつけた状態で持つて行きますけども、一人で暮らしている人だとかは自分のものしかなく、間違わないからチェックしなくてもいいのではないかという話で行き渡っていったんではないかなと思ったんですが違いますかね。

<事務局>

その件、その通りです。

当初、ごみ袋の色を同じにする際に、まずは収集の曜日が違うので曜日でわかること、また収集作業員さんと議論をさせていただいた時に収集作業員さんはごみ袋を持てば中に何が入っているかわかるのでチェックをつける必要もないし色別にする必要がないというようなお話で、ほかの町でもそれで問題なく行っているので室蘭市でも大丈夫でしょうということでやらせていただいて、ただ、家庭の中では同じ色になってしまったので、家の中で燃やせるごみなのか燃やせないごみなのかわかるように便利になるようにチェックをつけましょうということでやっていました。しかし、実際に収集が始まって、収集作業員さんと議論をさせていただく中で、ごみステーションによってはマナーの問題もあり、燃やせるごみの日に燃やせないごみが出てたり、収集車から見たらどちらかわからないという議論もあったので、チェックボックスがあるのでそれをチェックしてもらおうよう皆様に協力を求めていきましようということとなり、実際に収集が始まってからこれまでの考え方を変えて市民の皆様へチェックをつけていただくよう広報をさせていただいていました。当初と考え方が変わり、変わったことを知らない方もいるかと思いますが今後市の方で周知啓発をさせていただきたいと思っております。

<須田委員>

市のほうでは袋の色を変えるという考え方はないですか。燃やせるごみと燃やせないごみとで色を分けると、以前のような状態にするという考え方はないですか。

<事務局>

収集作業員の方含め市民の方から袋の色が分かれていたほうがいいということも聞くことがあるのですが、袋の色を同じにすることでメリットがあるため、色を統一させていただいたことがあります。市民の方にしてみると今まで可燃と不燃で二種類のごみ袋を買う必要があったが一種類でよくなり楽になったということや、販売店にしてみると在庫管理が非常に楽になり売り場面積も半分になったというようなメリットがあります。なおかつ札幌市はじめ室蘭市より大きな町でごみ袋の色が同じというところはあり、問題なくやっていて、そういったところを調査した上でやらせていただいております。去年始めたばかりでまだ馴染めていない方もいるかと思いますが、だんだん馴染んでいただければ、これが当たり前の状態になっていただければいいのではないかと考えております。

<須田委員>

今、馴染むのではないかという話もありました。しかし、今の状態を見れば結局はチェックをつけないでぱっと出すという傾向が強くなってくると思います。それでやっぱり市民が出す際に簡単明瞭に分かるようにやるということ、それによって収集業者のほうも収集しやすいんじゃないかと思えます。もちろん今すぐ明日にでも変えるというわけにはいかないでしょうから、検討されて何年か後には変えるといったそういう方向に持って行くほうが市民のほうも安心してごみを捨てられるし、収集のほうもある程度軽減が負担が軽減されるんじゃないかと思えます。以上です。

<吉田委員長>

はい、ありがとうございます。

今お話しいただいたとおりで、メリットもあるんですけどそのこのメリットがあまりうまく伝わらないという。私もそうなんですけど、燃やせるごみと燃やせないごみの袋を別々に買って、燃やせないごみはほとんど出さないでどうしても燃やせないごみが余ってしまう。ごみ袋の切替えのときには燃やせないごみの袋がたくさんストックがあり困るので、旧ごみ袋を使わせてほしいというご意見もあったと思うんですが、それに関するメリットは間違いなくあって、札幌市も燃やせるごみ燃やせないごみと両方併記しているんですが、ただチェックはないんですよ。チェックの実施率が例えば10袋に1袋しかついてない状況だとそれを5割にしたとしても、収集作業員が見分けるといった目的は実際に持ってみないとわからないのでチェックついてる有無っていうのはあんまりメリットがないのかもしれないですね。わざわざチェックはもしかしたらいらないかもしれないっていうところは実施率がどこまでを目的にされるのか。チェック率が8割9割までいけば多分意味はあると思うんですけども、5割とか4割ぐらいで収集員の方もついていないという前提で持ち上げるということになると実態に合っていないのでそこはちょっと見直しをしていただいたほうがいいかと思えます。色なんですけど、私もちょっと白じゃなくてもいいと思ったんですけど白と他の色とはかなりコストは変わるんですか。札幌市なんかは黄色なんですけど。

<事務局>

そうですね、白がやはり一番安く、ほかの色だと若干値段は上がります。

<吉田委員長>

ちょっと気になったのはやっぱり冬とかですね。収集車の方が雪に埋もれたステーションに入っている白いごみ袋を見つけるのは確かに大変かなと思ひまして。多分白いごみ袋を使っているところはそんなに多くないんじゃないかなと思うんですが、ちょっと今、ホームページでぱっと見てるんですけど、透明は確かにあるんですけど透明以外だと大体、オレンジ系で燃えるごみ、ブルー系とか緑系で燃えないごみと白いごみ袋を使っているところはそんなに多くないのかなという気もするので、色をすぐ来年から変えるという話ではないですが、そのさっきの収集の状況を見て、不燃ごみとか冬の間にはちょっとしか出ない日を見つけるのが大変ということがもしあるのであれば検討していただいたほうがいいかなと思ひます。いずれにしてもごみ袋変更から1年、2年になるのでこういうご意見を市民からお聞きしたほうがいいかもしれませんね。具体的に言うとアンケートで、「チェック項目にチェックしますか。」「なぜつけないんですか。」というような感じでお聞きすると良いかと。

<事務局>

色の件について補足で説明させていただきます。これまで塗料の混入率2%ということで新しいごみ袋を作らせていただいていたのですが、やはり中身が見えづらい、冬場に見えづらいということがありましたので、令和5年度から作製するごみ袋に関しては旧ごみ袋同様塗料の混入率を1%にするということで中身が見えるように改善します。若干プライバシーの関係でいくと下がってしまうかもしれませんが、皆さんいろいろなものを入れてるかと思ひますのでそこは勘弁していただいて、冬場の件も考慮して塗料の混入率を改善したというこ

とになります。

<吉田委員長>

そういう改善も市のほうに検討していただくということでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは議題の1番目議論していただきましたけども、これで1番目の議題は終了したいと思えます。

議題の2番目です。食品ロス削減の取組についてということで事務局のほうからご説明をお願いします。

議題

(2)「食品ロス削減の取組について」

事務局より説明

資料2

「食品ロス削減に向けた取組について」

参考資料1

「令和4年度生ごみ処理機等購入助成金アンケート結果」

参考資料2

「お供え物の処分方法などに関するアンケート結果」

<吉田委員長>

ありがとうございました。それでは今の食品ロスに関わる事務局のご説明について何かご質問ご意見あれば。

先ほどのお供え物の話、アンケートをされて非常によく分かりました。やはり廃棄が24%ということで、8月9月のピーク時にやはり大量の廃棄がされていますね。これは事業系一般廃棄物ということで西胆振の焼却施設のほうに持ち込まれるという状況ですね。確かに食品ロスとして考えるべきじゃないっていうのは、お供え物は先祖に対するものなのでそれを再利用することに抵抗があるという考えもよくわかりました。私が思ったのは実際にこういう取組についてかなりポジティブに捉えていていろいろな取組をされているところが多く、実際にそれをもらってくれる施設の情報提供が助かるという意見もございましたので、そのへんを市で間に入って、フードドライブなんですかね。そちらのほうに何か提供できるような仕組みがもしできれば非常にいいことかなと思えました。

ほかにご意見、皆さんどうですかねお寺とか行った際にどうされているか。

<山内委員>

私が通っているお寺では何年か前からお供え物を持ち帰りしてくださいという指示がありまして、随分少なくなったと言っていました。こういう問題が出たときに39のお寺のうち28しか回答がないということで、どうして協力してくれないのかなと思っていました。

<菊池委員>

私のうち是最初お寺にお骨を納めていましたが、その後お墓を建てて市内のお墓に移したんですけど、私の親戚4軒と私のところも空っぽなんですけど同じお寺に納骨をお願いしてるものですから、お参りに行くんです。お墓のほうは本当にもうほとんどというぐらい残ってるものがないんですね。お花は残ってるけれど食べ物ってほとんど見かけないんですよ。うちも親戚が4件ありますから、私がちょっと一足遅れていくと私が持っていったお供え物を上げれないくらい、お盆がいっぱいになっているんですね。ありがたいなと思いつつ、この後お寺のほうでどうするんだろうと余計な心配してたんですよ。だから自分が持っていくときは、生菓子ではなくておせんべい類とかちょっと日持ちのいいものを持って行って、親戚をぐるっと回って帰ってくるんです。しかし、中には本当に日持ちのしない果物とか、生菓子がお供えされているお家もありますよね。だから本当にこれどうするんだろうこんなにたくさんというのは日頃思っていたんですけども、「あれどうなったんですか」とご住職に

聞くのはちょっと気が引けて、どうするんだろうどうするんだろうと思いながらいつも帰ってきていたんですけど。アンケート見ててやっぱりそれぞれ悩みがあるんだなと思って読ませていただきました。お寺のようにお持ち帰りくださいというようにPRをもっとしてくだされば、お供えして持って帰るそれが普通になってくれれば、本当に無駄な手間も要らないし捨てるようなこともならないと思うので何とかそういう方向に持っていければいいなと思っていました。以上です。

<須田委員>

これは寺院の問題なんですよ。ですからこれは各寺院に任せるしかないと思いますね。外から言ったとしてもどうにもならない問題で、各寺院がきちんと衛生的にも考えて対応してもらおうということに最終的になるんじゃないかなと私自身はそのように考えます。

<吉田委員長>

多分これぐらい詳しくアンケートもしていただいて調べたのは初めてかなと思います。今回28の寺院のほうにかなりの回答率でご回答いただいて、食品ロスという日本全体あるいは世界全体の流れもあるので、そのへんで持ち帰りが大分進んでということがよくわかりました。今、お話いただいた須田委員のご意見のとおりで、食品なので譲渡した後の問題も考えるとおせんべいとか日持ちのいいものはいいんですけども、生ものをどこかに譲渡というのはそれも難しいので譲渡を一律にというのはちょっと難しいんですけども。ただしせっかくご回答いただいて、お持ち帰りを推奨というのはそんなに大きな問題ではないと思いますので、今日結論が出る話ではないですが今後進めていただくということですかね。

あと食品ロス全体についていかがでしょうか。実際に取組をされていることもあるので、消費者協会の安部さん何かありますか。

<安部委員>

今消費者庁で食品ロスサポーター制というのを推進をされていて、今年で2回目になるんですけども全国ネット配信で研修を開催しており、バッジや認定書の制度も用意しながら育成して、自分がどこかで講演とか座談の中で食品ロスを削減するという働きを個人がしましょうという形になっております。今年も消費者協会何名か受講させていただいて、若干食品ロスが削減をされてきているのではないかというお話もありましたが、それでも毎日1億2,000万個のおにぎり日本では失われている捨てられているという情報もありました。私も1億2,000万個のおにぎりっていうことは食品ロスのある意味象徴的な言葉で認識をしているところなんですけれども、そこから先ですね、どうやったら食品ロスを削減をすることができるのかということについては、なかなか取組が難しいかなってという。一つ大きな課題は、室蘭市さん取組予定の中にも当然入っていないんですけど、生産者の食品ロスなんですよ。生産者の食品ロスっていうのは国としては扱ってない。ここがすごく矛盾を秘めたところと、家庭から出る食品ロスと事業系から出る食品ロスとで二つあるわけですけども、家庭から出る食品ロスについてはこのように項目がたくさん上がるんですけど、事業系の食品ロスについては取組がやっぱり甘いというのをすごく実感をしております。そうは言っても、私たち個人で食品ロス、家庭から出る食品ロスをどうやって削減をするかということ課題にしていかなきゃいけないというふうには思いますけれど。全国レベルでは事業系から出る食品ロスっていうことについてはいろいろ検討もされて推進もされているところも多いと思うので、せっかく取組をしている室蘭市としても、事業系の食品ロスが取り組みしやすいところから何か希望が持てるようなものをぜひつくっていただきたいなと思います。

私たち消費者大会というのを1年に1度行っております。今年の室蘭市の消費者協会の消費者大会につきましては、食品ロスの削減法案ができて折り目のときでもありますので、食品ロスについてもう一度しっかりと学習したいと思っております。ただ、1億2,000万におにぎりというところから情報量がなかなか拡大しないわけですので、実践編を今回はやってみ

ようということになり、管理栄養士の方にどうやって食品を長持ちさせるか、野菜を無駄なく使うかなど、そういう角度から実践編として学びたいと思っております。もう一つは地道に取り組んでいる方もたくさんおりますので、そういう方のフリートークの場面をつくって、野菜についてはこういうふうに努力をしているとか、リメイク料理はこうやって作っているとか、各家庭の実践も含めて10月の消費者大会で皆さんの知恵の交換という形でやっていきたいなと思っております。

<吉田委員長>

具体的な取組をお話ししていただいております。

今ちょっといただいた話で事業系の話ですね。食品ロスの量は最新のデータで大体500万トンぐらい、さっきのおにぎりによると1日1億2,000万ですかね。大体半分が事業系半分が家庭系なので、今の取組は基本的に家庭系を中心にやっていますけども、政府全体としては事業系の食品ロスの削減も政策としては打っているんですけども私たちの身の回りで具体的にすることはなかなか難しいようですね。この委員会は事業系の廃棄物のところはあまり範囲じゃないところがあるので難しいところではあるんですけども、取組をされてるところをPRしていただくのはいいかと思えます。

大学でもですね、土曜日もあいている学生会館にできたカフェのところでNPOの方がフードドライブでやられてまして、月1回受け付けをして学生に配布しているのを聞きました。実はそういう取組が結構あるんですけども、実際に自分の身の回りでそういうフードドライブの取組があるということがなかなか伝わらないということが多いみたいで、いつでも何があるかもし知っていれば行っていたんですけども。そのへん市のホームページでも食品ロスに関するいろいろな資料や実績はあるんですけども、民間のNPOの方の具体的な取組とか場所や時間などの実施の予定などをPRできるようホームページや広報を工夫して作っていただけたらと思います。事業系の話はもう少し具体的に市のほうでやっていただけたところがどこがあるのかなどを考えなきゃいけないですが、市民向けのそういう取組のところがPRお願いしたいと思えます。

今の安部さんのお話は10月ですかね。

<安部委員>

10月20日金曜日ですね。会場は一応、胆振地方男女参画センター・ミンクールを予定しております。吉田委員長のおっしゃっていただいたとおりホームページ、広報の両方でアピールしていただければ。見る方も違うかと思えますので。よろしくをお願いします。

<吉田委員長>

食品ロスというわけではないですが、生ごみの話で西畑委員に資料をご用意いただいたのでこのタイミングでお話していただければよろしいですか。

<西畑委員>

説明

<吉田委員長>

はい、ありがとうございました。4年にわたる実際のデータで非常に貴重なデータをいただいております。今ざっと見たんですが大体1人1日470グラムというのが室蘭市のごみ排出量で、1世帯2人だと大体年間で340kgぐらいのごみの排出量ですね。そのうち約120kgを生ごみで堆肥化してるとなると、ごみ排出量の3分の1が家庭で堆肥化されているということで非常に影響が大きいということですね。電動生ごみ処理機の場合は乾燥なのでもう少し減量の割合が少なくなると思いますが、それでもかなりの量が減りますし、水分が減るので焼却施設にかかる負荷も減り処理のうえでもいいことかと思えます。確かに皆さんが出しているごみが3分の1ぐらい減りますというどのくらい減るのかの

PRはなかなかしたことがないので、こういうデータを一度まとめて堆肥化をしたときに大体家から出すごみがどのくらい減るのかという情報発信を事務局と話し合いながらしたいと思います。

夏の時期は特に生ごみを出すとすごい臭いですよね。堆肥化や乾燥機を使えば家の中の臭いも減るので夏の時期なんかはメリットが大きいですね。ただ冬は結構大変ですよ。冬の時期はこういうふうにしたほうがいいというのは、なにか西畑委員の家ではございますか。

<西畑委員>

冬の間穴を掘るとするのは非常に難しいので、秋のうちに1mぐらいの大きな穴を掘っておいてそこに集中的に入れるようにしております。

それから今年は熊騒動がありまして、天神町方面に熊の出没が相当あったということから、私もやや反省したのですがやはり埋めることが臭気を発散して熊を誘引することに繋がっているのかなと気にいたしました。ですから場所に応じて深く穴を掘って埋めるなどの臭気対策を行う、そういった用心も必要かなと考えておりました。以上です。

<吉田委員長>

はい、ありがとうございます。ごみステーションなんかですね熊が襲う可能性もあるので、ステーションで熊を見つけやすい取り出しやすいごみのステーションは今後検討が必要かもしれないですね。情報ありがとうございます。

それでは議題の2番目は食品ロスの削減取組に関する議論はここまでとします。

それでは3番目の議題になります。ごみステーション集約の検討について事務局のほうからご説明をお願いいたします。

議題

(3)「ごみステーション集約の検討について」

事務局より説明

資料3 「ごみステーションマップ（ごみ袋数別）」
参考資料3 「町別ごみステーション数」

<吉田委員長>

ありがとうございます。今見ていただいたとおりで最初にもお話ししたんですけども、収集の効率化という意味でいうとステーション数を減らさないとなかなか収集時間・距離が減らないということなんですけども。今回お調べいただいたのは事業者さんに各ステーションでどのくらいごみ袋が出てくるかということをお聞きしていただいて、資料3のデータはなんとなく皆さんのイメージと大体一致してるのかなという感じかと。緑色系のところは比較的たくさんのごみ袋が出ていて複数の世帯でシェアしてごみステーションを使っているところが多いんですけども、赤・オレンジに近いところは参考資料3のほうで軒先というふうに書いてある家庭のように1世帯で一つのごみステーション使ってる場所が多いということですね。その軒先の数是他都市に比べるとやはりステーション数が人口あたりで多いですね。

この全体の説明についてご質問ご意見ございますか。

<森川委員>

いろいろ質問したいことがあるんですが時間の関係もあると思いますので、ちょっと重なったことをお聞きしたいんですが。この資料3と参考資料3のごみステーションの数なんですけど、資料3のほうでは6,493となっていて参考資料3のほうでは6,080となってますが、今の現段階ではこの6,080が室蘭市内のごみステーションの数でよろしいのかなと思いますけどそれでいいのでしょうか。

<事務局>

実際のごみステーション数につきましてですが、参考資料3につきましては令和5年の4月1日時点となっております。資料3は7月時点のデータとなっております。資料3であれば合計で6,493か所とあるかと思いますが、この中で実際に廃止されているごみステーション数は166か所あります。それを引きますと大体6,300か所程度、これが実際に回収しているごみステーションになりますが、そのうち120か所は普段から全くごみが出ていませんということで伺っています。これらにつきましては今後、ごみステーション数の廃止ということで進めたいと考えています。そういった数を減らしていきますと、大体6,200か所、これが実際にごみが出ているごみステーションと考えています。ただこの6,200か所につきましても100か所ぐらいはごみが出たり出なかったりする、たまに1袋出るといったようなところで、基本的にはゼロという場所があると伺っていますので、実際にきちんと毎回ごみが出てくるようなごみステーションとしましては大体6,100か所程度と考えています。

<森川委員>

大体6,100か所ぐらいがごみステーションということで、私は蘭西側の人間なんですけど、これを見ますと本当に西側が戸別収集的な軒先というのが多いんですね。前回も話をしたかもしれないんですが、こういう面で蘭東と蘭西を見たときに、税金の使い方や税の公平性だとかの問題もありますし、市民がこれを見たときに、西側のこういうことが許されるんですかと。これでいいなら蘭東方面の人たちもこういう形にしますよとなってきても困るということがあります。ですので、市が目指す姿というものや我々市民が取り組まなきゃならない姿を示していかなきゃならないと思っています。この委員会ができてから私がずっと言っていますのは弱者対策ですね。ごみステーションまでごみを持って行けない人をどうしたらいいんでしょうかと。個別に回収するというのをしなきゃならないのか、何かいい方法があるのかということで、何回かこの場で議論したり市のほうからも提案があったわけなんですけど、この辺を早急に改善していかなきゃならないものなのかなという気もします。前回、今年度にこういう形で取り組んでいきますという話があった際に、町内会にこういう話を持っていくとかなり反発があるかもしれないということで、慎重な対応をしてもらえないでしょうかという要望も出したんですが、こういう数字を見ていくと町会だとか地域にこの実態をまず知ってもらって早めに解決策を考えていくことが大事だと思います。

それで、隣の港北地区の須田さんにちょっとお聞きしたかったんですが港北町を例に見ますと167のごみステーションがあって、そのうち軒先が2なんです。平均すると1ステーションで10世帯ぐらいを対応しているということなんです。須田さんのところにもお年寄り結構多いと思いますが、そういう軒先の回収は2件ぐらいしかないものかどうかとそれをお聞きしたいなと思います。

<須田委員>

この2件というのは、いわゆる自分の家の前に置いているものなのか、市のほうで体が悪い方を個別に回っているものを指しているのかどちらですか。

<事務局>

市の高齢福祉で行っている戸別回収は含まれていません。

<須田委員>

そうすると2というのは少な過ぎるような感じがしますね。なかには町会に入っていない人が町会のステーションに置かないで、離して置いているという例を私は見かけているんですよ。その部分というのがまだまだ数があるのかなというふうに思います。ごみステーションは町会中心にいろいろとやってるわけなんですけども、町会に入ってもらおうということ市のほうでも進めたいなということなんです。私としても本委員会のごみステーション

の数を適正に持っていくということは賛成なんですけども、今言ったことを含めてあわせて対応していただければと思います。

<森川委員>

ということでこの数値が本当に実態なのかなと疑問ではあります。幌萌町や陣屋町では軒先が0。中島本町では79件中1件。知利別町では132件あって軒先が0という、この数字が本当なのか。蘭西の絵鞆町や祝津町を見ると圧倒的に軒先が多いんです。蘭東方面では高齢でゴミが出せないという人はどういう対応をしているのかなと知りたいと思います。それが蘭西方面で説明していく上で大事な話となるかと思っておりますので改善をお願いしたいと思います。

<事務局>

町会さんによって軒先が非常に少ないというところがありますが、以前から市から町会さんにごみステーションの計画的な配置をしていただきたいとお願ひしてきた経緯もありまして、特に熱心に取り組んでいただいている八丁平や柏木町、港北町などは非常に軒先が少ないということになっています。そういった地域で高齢の方がどうやっておみを出しているのかということとは実態を十分に把握しているわけではないですが、今後そのあたりも踏まえながら弱者対策を検討していきたいと思っております。

<吉田委員長>

はい、私も少し補足させていただきます。最近 Google Maps 上ではごみステーションを見分けられるくらい皆さんの家の前まで情報が見れるようになってまして、それも使って解析してるんですけど、須田さんのいらっしゃる港北町ではごみステーションが10件とか、数件という区画の中にきちっとあるんですね。道のつくり方も中央町などと比べると非常に綺麗にラインがあるので、その両端にステーションを置くといったところも多く、また、少し道を入ったところも大体道沿いにしっかりステーションがあって港北町はステーションが整然と置いてあるんです。ごみステーションの作りに関しても歩道側からしか出し入れができないものが多いですが、港北町では車道からも出し入れができる構造になっているごみステーションも多く、収集業者の方はとても助かるそうなんです。私の印象として歴史的な経緯があって、蘭西地区は町が出来たときに既に戸別収集が始まっていたところもある反面、比較的町の作りが新しい水元や知利別、港北などは、最初にルールどおりに作ったところがあるのでステーション当たりの世帯数が比較的多いのかと思います。

1件2件が正しいかどうかというのはヒアリングの結果なので、必ずしも100%じゃないですけども、割合で比較すると、例えば絵鞆町だと軒先の割合は292件中190件で65%ぐらい、それに対して水元町では284件中40件で14%ぐらいと明らかに違うので、蘭西と蘭東で数字の差ははっきりとあります。ステーションが多いと作業の方が非常に大変で時間もかかる上、収集費用の増大という問題もあるのでステーションを減らさなきゃいけないと思います。その必要性を今後の見直しのデータとしてこのマップを見ていただいて、軒先収集が多いところは集約していかなければならないなと思います。ただし弱者対策ですね。排出弱者対策は同時にしていかなきゃいけないので、軒先の少ない港北町とか水元町でも年配の方は結構多くいらっしゃると思うのでしっかり弱者対策ができてくるのかというところはヒアリングをしていただけたらいいかと思っております。まず手をつけなきゃいけないのが資料3でいうと6%ぐらいは全然ゴミが出てないところがあり、1個から2個しか出ていない軒先収集に近い場所が4割ぐらいなので、こちらのほうから少しずつ集約するという方針で、市民の方に投げかけをしてステーションの集約に御協力を求めていくのがいいと思います。

<森川委員>

先ほど絵鞆とか祝津とか、私たちの地区の幸町とか本町とか固有名詞を出しましたけれども、うちの蘭西7町の地域でも町会長はじめ戸別収集そのものが悪いとは思っていないわけな

んです。いわゆるこれが当たり前なのかなというところで、私も話を出していくときになかなか入っていきづらいところがあるんです。当たり前のことで「何を言ってるの」という役員もいるわけなんです。ほかの都市、例えば函館や北斗市に行ってその話をしたときに、「戸別収集で1軒1軒収集するのが当たり前じゃないですか。」「市役所がやってくれるからみんな軒先に出してますよ。」とそれが当たり前だと思っているわけなんです。ですから蘭西地区が多いから減らしてくださいとなったら、当たり前のことを直すという抵抗があってそれが難しいところかなと思います。まず理解をしてもらうということと、こういう実態を皆さん方に浸透させていく、その中から我々も改善するところは改善するかという方向に持っていかないと町会の中で反感を買っても大変なことになるし、この辺慎重になおかつ速やかに、やっていかなければいけないと思っていますのでよろしくお願いします。我々町会もいろいろな面で協力しますのでそのあたりよろしくお願いします。

<須田委員>

港北町でも個別にごみステーションを置いているところがあります。それが許されるのかどうか。グループで一つのごみステーションを使っている中で、1人でごみステーションを置いていることが許されるのか。そのあたりもどういうふうにしていくかということを検討していかなければいけないですね。それから蘭西地区の話がありましたけども、私もごみの日に市内を回ってきまして、やはり蘭西地区は軒先に置いてあって網もかかってないんです。袋のままなんです。これはカラスとかに突かれないのかということも感じました。ですので早急にこの問題に対応していかなければいけないというふうに私は考えております。

<西畑委員>

資料3はよく調べていただきましたということで、本当に感謝したいところです。資料3を見ると先ほどから議論されてますとおり赤色が蘭西方面に多いと。地形の特徴や歴史的な背景などどんな経緯でこのように増えてきたのかを要素別に分析・ヒアリングするなどして地域の方々に事情を説明して、集約化するという方向に持っていかないとこれは解決しないのではないかと思います。特に可燃ごみの平均排出数という表を見ますと、排出量が1個から2個というところが2,680カ所。これはもう4割強を占めるわけで、こういったところを詰めていく必要があるんじゃないかと思います。もう一つですね。知利別町に分譲地では、その土地を買う場合にごみステーションを置く場所も含めて費用を払ってるというふうにした例があります。いずれにせよ資料3をよく吟味して、過去の経緯も含めて調べていけば削減につなげることはできるんじゃないかと考えます。以上です。

<石田委員>

前回も少しお話したんですけども、先ほど森川会員のほうから軒先が今や当たり前のような人もいるということなんですけども、私のところは本輪西の坂の下のところでありまして200m下のバス通りまで降りていってごみを運んでいるんです。他の住民と顔を合わせる時にはこれは決まり事だから仕方ないねという話をしているんです。前々回初めてこの委員会に参加させていただいたときにこんなに軒先のあるということが本当に驚いたんです。いつからこの軒先が野放し状態で増えていったのか。これはもう完全やった者勝ち、隣も軒先だからうちも軒先にしようという考え方で増えていったんだろうなと思いますが、やはり軒先が根源だと思うんです。作業員の負荷、コスト、全部、軒先をまず第1に改善していかなければ、問題は解決していかないのかなと思っています。それと同時にこういった弱者はですね、長い距離を歩いている弱者、そういった人も同時に救済していただけるような対策をお願いしたいなと思います。それと新聞で見ましたが、廃棄物収集効率化システムを現在進めていると。このタイミングで本当にこの軒先をどうにか考えていかないと、今度はもういつになるのかなという気もしますので、ぜひ軒先を改善していただければと思っています。以上です。

<吉田委員長>

はい、ありがとうございます。貴重な御意見。まさに今お話しが出たようにごみ袋の料金を見直しをして、Panasonic ITS さんがいろいろ取組んでですね、このタイミングでやらないと、そのままずっと何年もっていうことがあるので、ここ1、2年が山かなと思います。

菊地委員、全般的にお話を聞いての感想いかがですか。

<菊地委員>

全般的な話ということで、お話しさせていただきたいと思いますが、先ほど安部委員のほうからフードロスの中の話で生産者側、経済側のほうからの視点が考えられていないという御発言がありました。そちら側に携わっている人間として発言をさせていただきたいなというふうに思います。生産者がいて卸業者がいて、小売業者がいてというようなところで、なかなかフードロスの関係に取り組んでいくというのは結構難しいところがあるのかなというふうに思っています。こういう流れの話聞きまして、それじゃそれで難しいから何もなくていいのかというようなところではないなというところを非常に強く感じたところです。利潤を生んで経済を回していく社会を回していくというようなところで、その対極面のところでそれに対して何かしらの責任を果たしていくということが非常に今求められているのかなというふうに感じました。我々もこれから事業やっていく中で、そういう視点を持っていろいろと事業に取り組んでいきたいなというふうに考えました。私からは以上です。

<吉田委員長>

ありがとうございます。すいませんフードロスのところでお話を聞けば良かったですね。

ごみステーションの関連で御意見、木元先生いかがでしょうか。

<木元副委員長>

事務局の皆さん、御説明どうもありがとうございました。大変分かりやすかったです。ごみステーションの集約についてなんですけれども、実は私の授業で学生にレポート課題を出させていただいたんですね。室蘭市のごみ問題どうするかと。割といい意見があったので少し紹介したいんですが、ごみ捨てが楽しくなるような仕掛けをしたらいいんじゃないかというのがありました。例として挙げていたのが、奈良県の生駒市で、「こみすて」という取組です。ごみ捨てとコミュニティステーション、これを同時にやるんだと。ごみ捨て場の近くで何か飲物を出したりとかですね催物をしたりとかっていうことで足を運んで人が交流できるような仕掛けを奈良県の生駒市でやっている。このようにごみ問題の解決と、地域コミュニティの持続可能性、そういうのを同時に解決したらいいんじゃないかという意見だと思うんですけども学生の意見だからといってばかにせずに皆さん考えていただきたいなと思いました。私からは以上です。

<吉田委員長>

ありがとうございます。学生も貴重な意見を考えていただいております。

今日は資料提示ということで市内の収集事業者さんにヒアリングをして、可燃ごみは何袋でているのかということ、全部のステーション6,000か所近くを調べていただいた結果なので、なかなかここまでやってる自治体は少ないと思いますがこれでかなり状況がわかりました。ここから先どういうふう集約を進めていくかということの方針は間違いないんですけども、弱者対策と一緒にどうやって進めるかということですね。そのバランスをどうするかということですね。最後に木元先生から御意見あったとおり、減らすだけだと当然嫌ですよ。サービスが今まで100だったのが10になるんだったら誰もオーケーと言わないですね。見た目のいいステーションを用意するとか、Panasonic ITS さんのシステムからごみ収集が来る時間がわかるようにするといったサービスの向上も同時に考えた方が良さそうですね。

あとは歴史的な経緯ですね。やっぱり歴史的な経緯のところを十分調べていただいて、それを説明した上で、軒先収集の方が悪いということではなく、どうしても軒先収集をやらざるを得なかった時代から、今ごみステーションをまとめる時代になってきて、集約化をするという

ところをうまく説明していただいで進めていただければと思います。

ごみ袋の料金改定や来年10月には新中間処理施設といったごみ関係の見直しがされる時期なので、そのタイミングでごみステーションも進めていただきたいと思います。ただ一気にやるには少し難しいと思いますので、集約しやすいところを選んでいただいでやっていくことも必要だと思います。今議論していただいた中での課題を事務局でいろいろ検討していただいで、歴史的な経緯や削減の必要性、サービスの削減だけではなくメリットもあるよということをお説明していただければと思います。

<三浦委員>

収集している立場から一つお願いがあります。今現在ごみステーションの数は変わらないけど軒先が増えていきます。それはなぜかと言ったら、現在軒先収集が多い地域に人が引っ越してきたら、おのずと軒先収集になってしまう。その現状があるから増えるんですね。ですから皆さんが言うように早く手を打たないといくらでも増える要素があるんです。市のほうはごみステーションの数はもう増やさないということで普通のごみステーションは増えてはいないのですが、軒先はそういう現状があるものですからおのずと増えてしまうと。ですのでまずこれを早く手を打ったほうがいいと思うのは、我々も一緒なんです。しかし、この集約をするときに、例えば直線で1キロ道があって1番奥の家からずっと軒先になっているものを集約したとしても1番奥の家のごみステーションが残されてしまうと、結局移動距離、稼働時間含め一台あたりにかかる経費は変わらないんですね。ですからただ漠然と数を減らすだけではなく、そういったことも念頭に入れながら集約をやっていただかないと効果が少ないのかなと感じましたので参考に意見を述べさせていただきます。

<吉田委員長>

貴重なご意見ありがとうございます。集約に関しておっしゃる通りで数を減らすだけという単純なことではないので、収集事業者さんとちょっと話をさせていただいて、改善のときに反映していただいたほうがいいかと思います。

それではこれで議題3まで、御意見いただきましたので議論のほうはこれで閉めたいと思います。その他ということで事務局から御連絡のほうをお願いいたします。

<事務局>

次回のあり方検討員回は11月の開催を予定しております。詳細が決まり次第お知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

<吉田委員長>

それでは、以上でこの会議を終了したいと思います。御議論いただきありがとうございます。